

海の博物館では、女子美術大学と海の博物館との共催作品展「海女と芸術文化」がスタートしています。展示は、芸術文化などを学ぶ女子美術大学の学生が、昨年10月鳥羽市内に滞在した際のフィールドワークから着想を得て制作された作品です。また、この活動の記録集として書籍を発行します。

今回は鳥羽ストーリーズ・アートプロジェクトと展覧会に向けての学生たちの取り組みを紹介します。

展示期間 1月24日(土)～3月22日(日)

本の出版イベント 3月7日(土)午後1時～2時

ところ 海の博物館ギャラリー

海の博物館 TEL 32-6006



国崎の海女さんと女子美術大学のみなさん

## 鳥羽ストーリーズ・アートプロジェクト

「鳥羽ストーリーズ・アートプロジェクト」は、リンダ・デニス氏が企画し、女子美術大学の学生たちが現地の調査や市民との交流を通じた作品を制作してその地域での作品展示会を開催する、学生と市民との協働プロジェクトです。これまでも、鳥羽のなかまちや安楽島、石鏡の海女をテーマに実施しており、今回で5回目となります。

今回のテーマは、伊勢神宮とも関わりがあり、歴史ある「国崎町の海女」です。鳥羽の海女の伝統と、女子美術大学の学生をつなぐことで、より多くの人に海女文化について知ってもらおうと企画しました。学生たちは、国崎町に5日間滞在したあと、個人の作品制作と、独自の海女文化を国内外に発信するための展覧会を作り上げるグループワークを行いました。

## フィールドワーク研修

国崎町は、海女たちが獲ったアワビやサザエを、2000年以上にわたり伊勢神宮へ奉納してきた歴史を持ち、鳥羽市でも特に伝統ある海女漁村として知られています。2025年現在、国崎町では26人の海女が操業していますが、今回の研修に40代から70代の海女15人が協力してくれ、あまがうきめじんじや海士潜女神社、のしアワビ調整所、よろいざき鑑崎の灯台などについて、海女さんや漁協理事、町内会長にその由来や関連する話を伺いながら、町内を案内していただきました。

海士潜女神社では、伝説の海女として語り継がれる「おべんさん」の子孫のかたに話を聞くことができたほか、海女さんたちがお米と小豆を海士潜女神社、山の神、海の神にお供える様子を見せてくれ、学生たちは海女たちの信仰心に触れることができました。その後、3か所に点在する海女小屋を見学し、海女たちが実際に使用しているノミやタンポ、スカリやウェットスーツ、おもりを手にとり、使い方や漁について話を聞き、海女文化を肌で感じました。



海女小屋でのフィールドワーク

## 展示に向けて

今回、学生たちはグループ作品と個人作品を制作しています。グループ作品は「国崎の海女文化」「国崎の海女と伊勢神宮」「国崎の海女と風習」の3つのテーマです。学生が直接海女さんたちに質問する機会を設け、授業や関連書籍、インターネットでは出てこない海女独特の言葉や風習、海女の現状を実体験することで、学生たちの思考を刺激し、非常に熱心で実りある交流がおこなわれ、作品に反映されました。

このプロジェクトを通じて、国崎町の歴史や習俗、海女文化の魅力を学生たちがアートとしてどのように表現したのか、その成果をぜひご覧ください。



国崎の海女小屋での作品の撮影